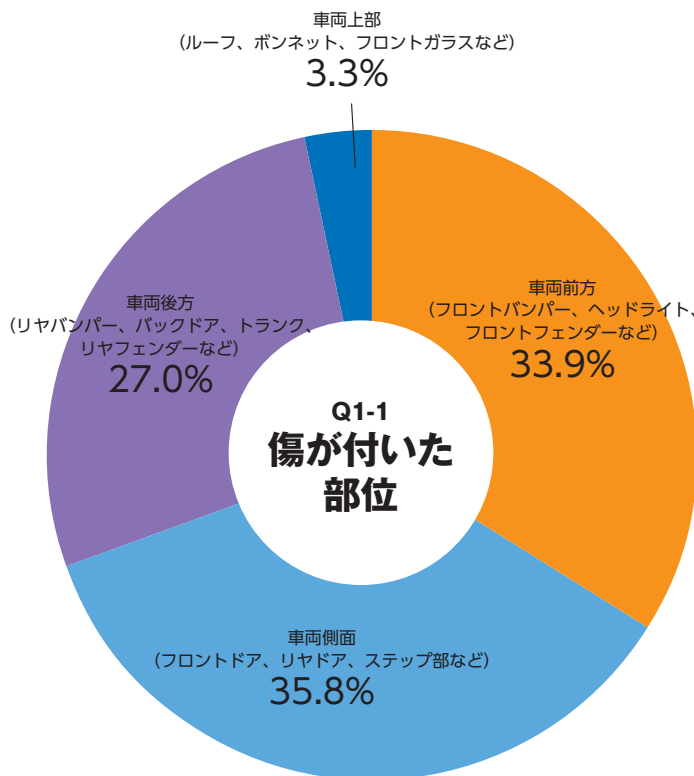


Q1

傷付いた部位は？ またその傷の大きさは？



損傷箇所は側面>前方>後方>上部の順 ASV普及の影響から車両前方の損傷は減少傾向

傷が付いた部位について車両の損傷箇所を4分割して調査した結果、ドアパネルやサイドシルなど車両側面が35.8%で最も多く、次いで33.9%でフロントバンパーなど車両前方、27.0%でリヤバンパーやバックドアなど車両後方、3.3%でルーフやボンネットなど車両上部の順になった（グラフQ1-1）。

本誌2020年増刊号において同じ質問内容で調査しており、当時の結果と比較すると車両前方が8.4%減少したのに対し、車両側面は4.3%、車両後方は4.4%増加していた。4年の歳月を経るとともにASVの普及が進み、前周りの事故が減少傾向にあることが読み取れた。

傷の大きさについて、車両前方では

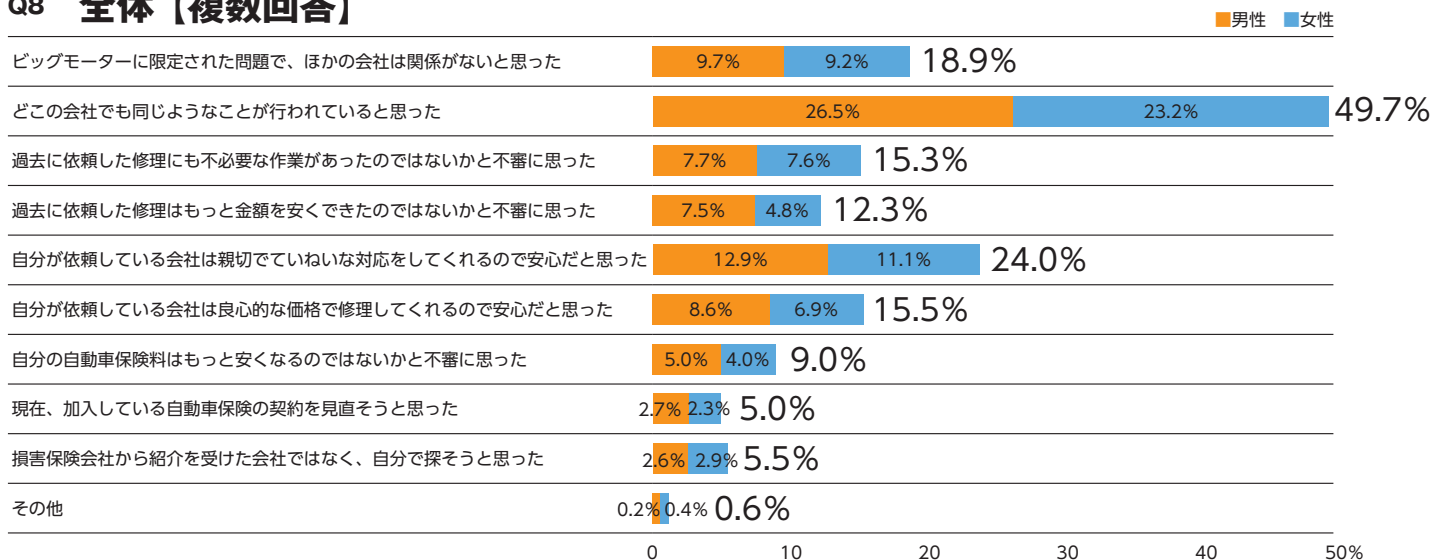
直径5.1～10cm未満の凹みが22.4%で最多となり、スリ傷（19.8%）、衝突事故などによる広い範囲の損傷（15.6%）が続いた（グラフQ1-2）。

車両側面では、スリ傷が最も多く23.7%、次いで直径5.1～10cm未満の凹み（19.8%）、直径10cm以上の凹み（15.1%）だった（グラフQ1-3）。幅10cm以上の線傷への回答

Q8

昨年、ビッグモーターによる不正請求問題が報道された際、どのように思いましたか？

Q8 全体【複数回答】



約半数が業界全体の問題だと認識 自動車保険に対するネガティブな意見は少数派

昨年、予想外の形で钣金塗装が全国的に注目を浴びるきっかけとなったビッグモーター（現：WECARS）による故意に車体を傷付け、不正に保険金を請求していた問題について、カーオーナーがどのような思いを抱いたかをたずねた結果が**グラフQ8**。男女ともに回答を最も集めた「どこの会社でも同じようなことが行われていると思った」が49.7%となり、およそ2人に1人がビッグモーターだけでなく、業界全体に対して疑いの目を向けていたことが分かった。対して、「ビッグモーターに限定された問題で、ほかの会社は関係がないと思った」は18.9%にとどまった。

また、「自分が依頼している会社は親切でていねいな対応してくれるので安心だと思った」への回答が24.0%、「自分が依頼している会社は良心的な価格で修理してくれるので安心だと思った」が15.5%あり、工場と信頼関係を築けているカーオーナーが一定数見られた。

自動車保険に対する回答では、「自分の自動車保険料はもっと安くなるのではないかと不審に思った」が9.0%、「現在、加入している自動車保険の契約を見直そうと思った」が5.0%、「損害保険会社から紹介を受けた会社ではなく、自分で探そうと思った」が5.5%だった。カーオーナーの

視点では、自動車保険の制度よりも車体整備業界のほうに問題があると考える人が多い傾向が垣間見えた。

カーオーナーに同じ穴のムジナととらえられているこの結果に納得できない読者もいることだろう。しかし、このビッグモーターの問題をきっかけにブラックボックスになりがちな車体修理作業に対し、カーオーナーが不信感を抱いたというのは事実として受け止めなければならない。作業の透明性の確保と法令遵守こそが、業界の信頼回復の鍵を握ることになるだろう。